

日中がわぐち

2022年2月1日

ホームページ
www.k-jcfa.com



川口市日本中国友好協会
埼玉県川口市西青木 2-4-20
メゾンエビハラ 302
048-253-2177

編集・制作 電腦俱樂部

日中国交正常化五十年埼玉
玉県・山西省(友好県省締結
四十周年

理事長 加藤展桁

本年(二〇二二年)が日中国交正常化五十年、埼玉県、山西省友好県省締結四十周年(一九八二年締結)を迎えます。この四十年五十年、日中間は困難な時期もありましたが、両国が困難を克服し、友好関係を維持し更に前進させてまいりました。先輩諸氏のご尽力に感謝し、私たちもまた努力を継続しなければなりません。

川口市日中友好協会の現会長は川口市の奥ノ木信夫市長(元埼玉県議会議員)です。奥ノ木会長は若い頃から古代から近代までの中国の歴史が大好きな方で、県議時には埼玉県議会として中国との姉妹都市交流を積極的に推進し、西省にも十回ほど足を運び、埼玉県立医科大学に山西医科大学の留学生を毎年五人受け

入れています。中国には三十数回ほど訪問していますが、特に山西省、シルクロードには数多く訪問、新型コロナウイルス感染症収束後には友好都市について太原政府と検討を進めていく方針です。



中国大使館訪問

また、川口市には約三万五千人の外国人が居住し、その内六十%が中国人の方々です。奥ノ木市長が言われている「言葉」・「文化」も取り入れた「共生」がそこに生かされています。鋳物、機械、繊維、農業などの研修生も市民生活

に溶け込んでいます。二〇二一年は東京五輪、そして二〇二二年は北京五輪が開催されます。新しい時代に新しい感覚で一衣帯水の関係にある日本と中国がEto Etoの関係になる様私たちも民間の立場で一步ずつ友好事業を前進させなければなりません。



西安旅行 西安外国語大学生と交流

このような基本理念で川口中では、中国語教室メンバーを中心に二十数回の中国訪問を行っており、近年は訪問地の大学の先生及び学生たちと環境や文化、学生生活などの話題について話し合い、そして遊びの中の会話を通して販

やかに交流を行っています。これらの交流は、小さな一歩として、将来の日中友好にとって大きな貢献ができるものと確信しています。

また、川口日中は現在七クラスの中国語教室と一クラスの日本語教室を運営しており、事務局、スタッフ、幹事会が一丸となって中国人講師の指導で「授業を楽しく学ぶ」をモットーに進めており、異文化を理解し友好につなげ、新しい時代の新しい日中関係を推進する担い手になればよいと願っています。

コロナ禍の中での協会活動ですが、毎年行っている中国視察研修旅行、小学生親子大使館訪問、中国映画観賞会などの他に川口ボランティア見本市、芝園公民館文化祭、川口法人会祭りなど全てが中止になってしまいましたが、昨年九月より中国語教室だけは事務局、スタッフ、幹事の協力で新型コロナウイルス感染症対策を万全にし、再開することができました。

川口市日中友好協会は一九七三年九月、埼玉県日中役員であった坂本隆太郎氏が有志の方々と設立し、本年五十周年を迎えます。

令和四年(二〇二二年)、奥ノ木会長(川口市長)を筆頭に協会員一丸となつて前進してまいります。関係する各位の皆様のご指導、ご協力よろしくお願いいたします。

特集川口・西川口に住む中国の人達

林・芳男

川口は昔、鑄物の町や安行の植木の町として名前が知られていました。

また以前、西川口は風俗の町として全国的に名前(汚名)が知られていましたが、最近はその後に中国人が住み、西川口を「新中華」の町として、中国人相手の郷土料理が食べられる町として、マスコミ

にも取り上げられるようになりまし。芝園団地も住人の五十%が中国人という日本一有名な団地として知られるようになりまし。隣りの蕨には多くのクルドの人達が集まり「ワラビスタ」という呼称までついてしまいました。いつの間にか川口は多国籍化した町としてマスコミにも取り上げられるようになりまし。現在川口には二万人以上の中国の人達が住んでいます。都内にITエンジニアとして勤める人や西川口で中国人相手に中国料理の店を開いている人など、それぞれ事情が違います。そこでは非直接会って話を聞き「日中かかわぐち」に特集を組みたいと思ひまし。

快くインタビューに応じていただいた皆さんに感謝いたします。

(追記)川口が二〇二〇年、二〇二二年に二年続けて「本当に住みやすい街大賞」に選ばれました。

UR川口芝園団地における中国人住民の暮らしぶり

芝園団地自治会事務局長

岡崎広樹

川口市芝園町にあるUR川口芝園団地(以下、芝園団地)の人口は約四六五〇人。その内、外国人住民は約二六〇〇人であり、その大半は中国人住民です。



川崎事務局長 浅野剛氏 撮影

なぜ、芝園団地に中国人住民が増えたのでしょうか。二〇〇五年の論文によれば、一九八〇年代から一九九〇年代初期に来日した中国人就学生や留学生は、当初、日本語学校や専門学校などが多く立地する新宿区大久保や池袋周辺に住み始めまし。

その後、来日する中国人が増加していくと、低廉な賃貸住宅が不足し始めて、都市中心部の物価高などの要因も加わり、その居住地は鉄道に沿って近郊へ分散していきまし。その際、東京都に隣接する川口市は、居住地の候補になつたようです。

ちようど、一九九〇年代後半から二〇〇〇年代の初頭にかけて、芝園団地は部屋の空きが目立っていました。URの団地は、基準額以上の収入があれば国籍を問わず誰でも借りられます。そのうえ、外国人は来日直後に保証人を見つけにくい一方で、URの団地は保証人が不要です。

また、企業が寮として借り上げている部屋もあります。たとえば、若い男性三人が三DKの寮に住む場合、DKの部屋は共用部分になり、各部屋には一人ずつ住んでいます。寮の家賃はいくらか尋ねてみると、私の知り合いは四万円でした。三DKの家賃は九万円前後の場合が多いため、光

熱費込みの金額と思われまし。

最近では、友達紹介で引っ越して来る人が多くいます。芝園団地に住んでいる友達を訪問するうちに、良い場所だと感じて引っ越す人もいます。このように、様々な要因が重なり合うことで、中国人住民は増えてきました。

中国人住民の多くはIT企業に勤めています。中国から長期出張に来ている人がいたり、日本に根づいた元留学生がいたりします。自治会役員の中国出身者二名も元留学生です。「中国人」と一言で表現できても、その背景は実に多様なことに気づきます。

芝園団地の敷地には、「新都アジア物産」という中国物産が中心のアジア物産店があります。経営者曰く、「埼玉県の中では一番大きいアジア物産店」だそうです。一号店は高島平団地で、芝園団地が二号店です。他にも、中国東北料理の店や、マレーシア系の華僑が経営する「香港焼臘」があります。

さらに、土日には集会所や公民館で、幼児向けの中国語教室が開講しています。子どもたちは日本語中心の生活になりやすいので、幼少期から中国語を学ばせる家庭もあるわけです。最近では、日本華世芸術学校が商店会の店舗を利用し始めました。子ども向けのダンス教室などが開講されて、ますます、中国人住民が住みよい環境に、やはり、生活の基盤が十分に整っているからこそ、中国人の集住が進んでいます。

ただ、これだけ集住しているのに、中国人同士の間は薄いです。「ウィーチャット」には、多様なグループがあります。ママさんグループ、交流グループ、中古品売買のグループなどがある一方で、実際に対面で出会う機会は少ないと聞きます。

二〇一八年、「中国人のママたちが、小さな子どもを連れて集まれる場所がなく孤独になつていく。安心して集まれる場所が欲しい」と中国出身

者から相談を受けました。そこで、自治会はコミュニティスペースの開設をURに陳情しました。

当時は商店会に空き店舗があつたので、そのスペースの活用を考えたのです。

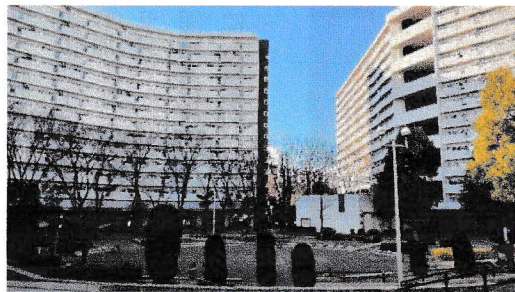
URは乗り気になつたものの、中国人ママたちが「やっぱり自分たちで運営できない」と途中からなり、結果的に頓挫しました。住民同士のつながりが希薄なことも、その原因の一つと思われまふ。

なぜ、住民同士のつながりは希薄なのでしょう。その理由として、団地住民の引越しの激しさが挙げられると思います。ここ数年は、住民全体の二割弱が毎年のように引越しており、中国人住民は二〜三年で入れ替わる感覚です。

芝園団地は、来日直後の橋頭保になる場所。寮住まいの人は一年もすれば自由に暮らしたくなり、自分で部屋を借りて引越す人もいます。

また、子どもが就学年齢に

なると、三つの選択肢が出てくると聞きます。一つ目は、芝園団地から小学校に通わせることです。二つ目は、中国の小学校に通わせることです。日本の学校は、中国の学校に比べると物足りない。そこで、お母さんと子どもは中国に帰国し、お父さんが単身赴任にすることもあります。



芝園団地

三つ目は、日本の教育環境が良い地域に引越すことです。埼玉であれば浦和や東京に住居を購入します。「浦和には、小学校二年生から英語を

教える学校もあるんだよ。やっぱり、浦和は教育環境がいよいよね」と中国人住民から聞きました。子どもの教育には、とにかく熱心。そのネットワークを駆使して情報を入手しているようです。

これまで、自治会では中国人住民と関係を築くための努力を積み重ねてきました。ただ、知り合いが引越してしまえば、また、新しい住民との関係を一から築くしかありません。私が住み始めた二一四一年以降、いちごっこが続いています。

さらに、中国人住民は、ただ働くために来日した人も多くいます。そのため、日本に対する関心が、外国人留学生のようにあるわけではありません。しかも、芝園団地には、高齢者の日本人と若者の外国人が住んでいます。やはり、「異国の地」で「隣近所に住むだけ」の「世代が異なる」「見知らぬ隣人」と関わりた

いわけでもないのです。また、言葉が違ったり、生

活習慣が違ったり、人との関わり方が違ったり、と様々な違いは確かにあります。その一方で、日々の暮らしをみる限り、二十代後半から三十代の日本人と、さほど変わらない人々のように感じています。

各地の中華街や西川口とも異なり、中国人が何の変哲もない居住空間に集住する稀有な場所です。ぜひ、一度だけでも芝園団地に足を運んでみてください。

芝園団地住民 李海濤氏へのインタビュー

芝園団地に住む若い李海濤氏を紹介して頂き話を聞くことが出来ました。

李さんは二〇一九年来日しました。出身地は黒竜江省のハルビン（哈尔滨）です。

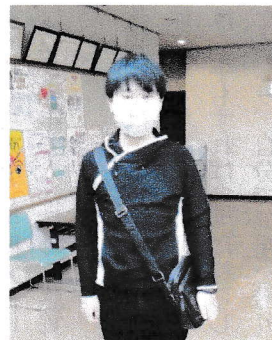
日本に来る前北京の会社に就職していました。北京でネットを見た日本のIT技術者の求人を見て就職を希望して

来日。日本語の勉強はハルピンと日本に来て少し自分で勉強した程度。現在も日本語は難しくなかなか理解出来ない。日本で就職した理由はお兄さんが日本のアニメや映画が好きで自分も良く見ていたので日本に興味があり来日しました。ただ映画で見た日本の印象とは随分違っていました。

芝園団地は友人の紹介で入居、現在は天王町の会社に所属していますがほとんど在宅勤務で現在あまり忙しくない。友人はこちらに はいません、大阪在住でメールでのやり取りが主体ですが大阪に行ったことは有りません。部屋にはテレビやクーラーもなく夏は大変です。

日本の食べ物味が薄く、もう少ししょっぱいほうが良い。(ハルピンは寒い国なので味付けは塩分が多く日本の味付けは物足りないのか?) ハルピンは焼き物が美味しいです。(焼き物料理の意味が分からない?串焼きのこと?) 日本の料理で好きなのは唐揚げ

です。



以前は団地の中華料理店「劉府」に時々食べに行きましたが、新型コロナが蔓延してから行かなくなりました。

日本語教室の受講生二人

昨年の二月から休講中の日本語教室の川口在住の受講生二人に川口についていろいろ聞いてみました。

劉 曉民 中華人民共和国 陝西省西安出身二〇一〇年にITエンジニアとして来日。二〇一一年に茨木県のひたちなか市の工場に一年間中国人の仲間五人と住込みで自炊す

る。工場の周りは畑ばかりで何もなく、とにかく静かでした。食材はスーパーとコンビニが一件ずつ有りそこで購入して調理をしました。一年後帰国しました。日本語教室には二〇一九年に川口の日本語教室一覧を見て参加しました。協会活動のボランティア見本市や芝園団地文化祭、川口法人会祭りにも積極的に参加しました。



劉さん西安の紹介

(協会の手伝いをして頂いて大いに助かりました。受講生のリーダー的存在です) 以前池袋の段躍中氏主催「池袋漢語角」に参加の後、

劉さんの故郷の西安料理の店に行きました。劉さんに聞きながら「刀削麵」や西安のハンバーガー「肉夹馍」(ロウジヤオモ)を食べました。「肉夹馍」の店はまだ西川口に無く興味深く食べました。

西川口は東京や会社近くに物価も安い。外国人(中国人)も多く住みやすい。(西川口は中国人も多く丸一日日本語を話すこともなく生活が出来る、という話を聞いたことがある)ただ、茨木と違いタバコを吸う人が多く、タバコのおいが臭く困ります。テレビは無くYouTubeで番組をよく見ます。情報は新聞から得ます。食事は殆ど外食です。今年帰国する予定があります。

常 希文 中華人民共和国 江蘇省 南通市出身日本には二〇一九年五月に来日しました。仕事はIT関係です。中国で日本の会社の面接を受けて来日しました。最初は川口住まいでした。会社の紹

介で今の蔵の住まいに引っ越しました。日本に来た時もう結婚していました。



常さん川口漢語角で楽しく

日本語教室には六月から参加しています。まだ日本に来たばかりで色々教えてもらい助かりました。毎週土曜日が楽しみで参加しました。分からない事が有ればWeChatで日本語教室の皆にすぐ聞けます。

(以前中国語が通じる病院を聞かれてネットで川口、蔵の病院を調べて連絡しました。蔵に住んで不便なことはほとんどありません。東京には近いし、物価も安いです。日本の食事は刺身以外なんで

も大丈夫です。現在は在宅勤務なので仕事に行くときは妻が作りませんが、それ以外は自分で作ります。中国料理がメインですが、時々日本料理も挑戦します。鮭のシチューや照り焼きも作ります。惣菜は毎日買います。

今年、子供が生まれてからは子供の世話で忙しいです。日本語教室の皆に赤ちゃんのこと色々教えてもらっている。家にテレビは有りません。スマホで十分です。将来、出来れば日本の永住権を取りたいと思っています。

**西川口「福記」経営者
林必漢氏（福建省 福清市出身）へのインタビュー**

来日は二〇〇八年です。約二年間、語学学校で勉強後専門学校で四年間旅行業等を勉強しました。終了後旅行会社に勤めましたが待遇が悪く直ぐに辞めました。奥さんを故郷・福建から呼び寄せ福建人

相手に福建料理の店を開きました。

「海蛎餅」（ハイリーピンという福清の伝統料理を中心に始めました。「料理は妥協しない」ことをモットーに始めました。故郷の味を求めて福建人が常連客となってくれました。

又、ツイッターやフェイスブックを日本語で発信を続け日本人のお客も増えてきました。（昨年別件で西川口の取材を頼まれ「福記」の李さんを紹介して訪問したとき店はテイクアウト専門になっていました）四月からの娘が学校に入るので狭い店でコロナが心配でテイクアウト専門にしました。コロナについては中国のニュースでコロナの陽性者が出ると周りも強制的に検査されるニュースを聞いて、日本人以上に敏感になっている。昨年二番目の子供も生まれ来年幼稚園なのでそれまでテイクアウト専門を続けて子供の世話をします。コロナ前は六十〜七十%日本人のお客が来るようになった



福記店舗(現在テイクアウト専門)

のがコロナ後は全くなくなりました。中国人のお客も減っています。売上はがた落ちですが店は夫婦二人なので給料の支払いもなく家賃さえ払えれば細々とやっていきます。健康が第一でコロナが収まれば又前のようにやっていきます。それまでの辛抱です。（厳しい状況でも樂觀的です、以前この商売を始めたばかりの時に、これでいけると思ったとき直ぐに新小岩に店を出して失敗する、この辺は中国人らしい、しかもめげない）西川口の良い点は三十分も有れば都内に行けるし、食事にも行けます。



福記 老板

中国では大都会でなければそんな便利なことはできません。子どもの教育も日本では農家の子供も都会の子供も簡単に学校に簡単に入ることができません。中国では希望する学校に入るには手続きが大変です。子供は家では中国語で生活しているの、学校では特別に日本語の勉強をしている。学校に行くとき日本語が主になるので、中国語を話すのが苦手になるといけないので奥さんが中国語を教えている。高校までは日本の学校に行き大学はどちらの大学に行くか自分で決めさせたい。

西川口の良いところは住まいでも東京に比べて家賃（敷金、保証金含む）も格段に安い。店を開くにも東京は日本語が話せないと言売にならな

いが、西川口は中国人がメインの店の為、日本語が話せなくても商売できます。それに料理人は若い人よりも四十代ぐらいの人が多く日本語もできないので他の仕事に付けない。その為、西川口に料理人が集まるので店も出しやすい。この先将来はもう少し広い店でお客さんとゆつくり話ができる店にしたいと話して終わりました

最近の西川口の中国料理の特色

西川口の店は「青椒肉絲」や「エビチリ」、「回鍋肉」という定番料理でなく「蘭州ラーメン」やハルピンの田舎



料理の店「騰記鉄鍋炖」、蛙專

門店「安老爺」羊肉専門店「小城」等、中国各地のローカル色豊かな店が増えてきました。



鴨脖のメニュー

最近「鴨脖」(ヤボ)と言われる「アヒルの首」の店が増えています。中国では焼き鳥感覚で食べているようです。

「福招門」川口店のママ？
さんに話を伺いました

川口駅東口から銀座通りに向かい約四分行くと右側に「福招門」が有ります。赤い看板に「福招門」の文字、赤い提灯の中国スタイルで店はすぐわかります。十年前に中国語を習い始めた頃には「暑気払い」、「忘年会」、三月の「謝恩会」や何かにつけて良く通

つた懐かしい店です。

とにかく料理の量が多く安く、そして中国で食べた料理も有り食へに行くのが楽しみになりました。当時は若い夫婦二人が切り盛りしていました。時々赤ちゃんを連れて来るのも私たちの楽しみの一つでした。

今回、店のママさん(勝手に呼んでいます)に話を聞きました。中国の出身地や、いつ日本に来たのかという決まり文句から始まりました。ママさんは中国・山東省青島出身です。日本に来たのは十年前です。

先に日本に来ていた妹が錦糸町にいました。実は「福招門」にいた若夫婦の奥さんはママさんの妹でした。その後、若夫婦は小岩の店に行き、この店の味が変わったのか私の足が遠のきました。当時の赤ちゃんは小学三年生になったそうです。時々妹さんに会いに行くそうです。この店に来たのは四年前だそうです。店のお客は八

十%が日本人(西川口は中国人が主なお客)のお客。川口は物価も家賃も安く住みやすい。



福招門のママ？

買い物も近くで買える。「そごう」や「ヨーカドー」がなくなり衣料品を買うのは少し不便。川口は最近家賃も上がってきている。私の日本語は下手で日本語教室で勉強したい(コロナで日本語教室はまだ休講中です)

日本語は青島で少し勉強しただけで、日本でテレビや仕事しながら覚えていただけです(それにしても日常会話には十分)。コロナでお客が減ってなかなか戻らない。皆心配でお酒も飲まない。忘年会も少ない人数で五く六人ぐらい。日本人はあまり食べないで

すが、お酒は紹興酒が好き。中国では紹興酒は料理には使うけどあまり飲まない。私は日本料理は刺身も大丈夫です。



でも日本料理の味付けは薄すぎる。魚はシヤケが好き。正月は一日(元旦)だけ休み。最近周りに中国の食材店が増えてきました。中国人がこの辺も多くなってきたからでしょう。ママさんはこの先も日本にいたいですか？と聞いてみました。私は日本に慣れて友達もいるので将来も日本にいたいです。との返事でした。

早くコロナやオミクロン株も収束し、皆で「福招門」で食事会をしたいと思い、店を出ました。

編集後記

ここ二年間コロナ禍で協会活動も殆ど出来なくなり、「日中かわぐち」の原稿として様々なイベントの活動報告や中国旅行の旅行記も中止の為、集まらなくなりました。

昨年は「コロナ特集」としてコロナ禍の中の日本語教室や中国語教室の休講、協会活動の休止などを取り上げ何とか六十一号をまとめることができました。昨年十月から中国語教室も再開し、今年こそと期待しましたが新たにオミクロン株が猛威を振るいだし、結局新春懇親会・定期総会もオミクロン株の前には中止を余儀なくされました。ただ今後の活動については教室も含めて安全対策を十分打ったうえで活動を模索していく方向も含めて検討していきたいと思えます。